

## じあいたいむ

山形県 長井小学校 1年 渡部 稜真

「あしたも、きもちよくすごせますように。」

このことばは、ぼくがかえるとき、いつもみんなのつくえをきれいにならべながらおもっていることです。

小学校にきて、だんだんおべんきょうやとうばんのおしごとができるようになってきたとき、ぼくのクラスでは、かかりをきめることになりました。はじめてのおしごとだったので、とてもわくわくしていました。

10 こくらのかかりがやっときまって、いよいよやりたいものに手をあげることになりました。大人気だったのは、こくばんかかりです。先生がかいているこくばんをけすことができるので、みんな手をあげていました。もちろんぼくもこころのなかで、(やってみたいな)、そうおもっていました。

みんな、なかなか手をさげることができません。なんだか、さいしょのわくわくしていたきもちがだんだんちいさくなってきました。

そんなときです。先生が、こんなことばをいいました。

「さて、じあいたいむです。もういっかいかんがえてみましょう。」

ぼくのクラスには、「じあいたいむ」というじかんがあります。かんたんなことばでいうと、「“おともだちのきもちをかんがえよう” たいむ」です。

このことばをきくとぼくたちは、「どうしてもやりたいか、それとも、ともだちにゆずってあげようか」、もういっかいかんがえるようになります。うんとかんがえます。よくかんがえます。

そして、やっぱりあったかいところをもっているぼくたちのクラスは、あつというまにかかりのしごとがきまりました。ぼくも、やっぱり(ちがうかかりで、がんばってみようかな)とおもって、なまえのじしゃくがひとつもはられていなかった、せいりせいとんかかりをやってみることにしました。

はじめは、(きっとだれもほめてくれないだろうな)という、わるいところがありました。

でも、ある日のかえりのかい、「ほめほめたいむ」のじかんに、こんなことばをいわれました。

「わたし、いちばんはやくきょうしつにくるけど、つくえがぴんとそろっていました。いつも、りょうまくんがしてくれているから。ありがとう。」

ぼくは、かおがまっかになりました。ほんとうにはずかしかったけれど、ちゃんとみられているんだなおもって、うれしくなりました。その日からぼくは、ズルしようなんていうきもちがなくなりました。

ぼくは、クラスみんながあったかいきもちになれる「じあいたいむ」がだいすきです。